

ましき授業スタンダード(生徒用)

「自立した学習者」をめざして自分の学びを調整しよう！

家庭での学習 (自分時間を活かそう)

▶家庭学習は「自分自身の学び」を進める絶好の機会です。「自分で選ぶ、自分で決める、自分で進める」学びに取り組ましよう！

○【予習】これ面白そうを先取りする

まだ学んでいない内容を事前に確認
「問い」を持ち学習に参加

○【復習】「わからないこと」を「わかる」に変える！

自分の苦手なことや課題が明確になる。

○【探究】好きなことをトコトン調べる！

学校で学んだことなどや興味や関心を持った内容について調べていく。

学びの土台を作る
授業「を」活かす

学び方を身につける
授業「に」活かす

単元の学び

- ◎ (かかわる) 一人で学ぶのではなく、
みんなで学ぼう！
- ◎ (見通す) この単元は何を学ぶ単元なのか？
単元の学習が終わると「〇〇博士」になった！
自分の姿を具体的にイメージしよう
- ◎ (振り返る) この単元の学習を通して何がわかる？
(明らかになるのか？)
- ◎ (やりぬく) 単元は長いけど、学習をやりぬこう！

☆考えを共有する場面で活用しよう！

聞き方名人6か条

- レベル6 疑問点や
新たな考えが持てるように
- レベル5 自分の考えと比べて
- レベル4 認め、反応しながら
(うなずき・共感の言葉)
- レベル3 最後までしっかりと
- レベル2 話す人や提示される
資料をみて
- レベル1 作業をやめて集中して

話し方名人6か条

- レベル6 順序立てて、筋道立てて
説得力のある話し方で
- レベル5 仲間の考えとつなげたり、
比べたり、まとめたりして
- レベル4 最後まではっきりと
- レベル3 仲間に聞こえる
声の大きさを
- レベル2 仲間の方を見て
- レベル1 返事は「はい」と
気持ちよく

メタ認知能力の高まり

授業のすすめかた



▶授業(50分)をフル活用！

授業スタート！

▶授業スタートが肝心！心のスイッチON！

① 今日の問いを見つけよう

→「問い」や「課題」、「思い」を引き出す！

□既習事項の振り返り

② 学習課題(「何ができるようになればOK?」の確認

→「何を学習するのか」「何ができればよいのか」を明確に！

□めあてをつかむ(課題解決のために)

→「～について〇〇しよう」「(なぜ) 〇〇だろうか」等

じっくり取り組もう！



▶「個人で取り組む」「友達と深め、広げる」！

① 計画・方向付け・見通し→追究・解決への手がかりが見つけれられるようにする

□学習課題を自分の生活経験や学んできたことを手掛かりに、

「何をどのように追究・解決するか」等の計画や見通しを持って学習に取り組もう！

【結果の見通し】・答えを予想する。・仮説を立てる。

【方法の見通し】・これまでの学習で使えることはないか。

・どのような順序で行うか。

② まずは一人でチャレンジ！→自分の思いや考えを持とう！

③ みんなで深める・広める

→話し合い活動を通して思いや考えを広げ深められるようにする！

□自分の【考え】を持ち、友達との交流を通して、考えを確認したり、考え直したり

話し合いの活動の時には→「何について話し合うのか？」

話し合うことをはっきりさせる。

→積極的に自分の考えを伝えよう

まとめ・振り返り→学んだことを整理して、次の学びへ！



▶「学び」を深め、次の「学び」へつなげよう！

① 学んだことを自分の言葉にしよう→「何を学んだか」を言葉や文字にしよう！

□「何を学習したか」をまとめる。本時の「めあて」と「まとめ」はつながってますか？

※まとめはめあて(や課題)に対する「答え」と考えるとわかりやすいです！

→自分の言葉でまとめられるようにしよう。

学んだ情報や言葉を整理して相手に説明(伝えること)できるように文章化しよう

□「どのように学習してきたか」を振り返ろう。

→板書やノートをもとにした確認。自己評価や相互評価に取り組もう！

タブレットを使った場合も一緒！

生徒の活動

課題(明らかにしたいものは何か)を確認する！

めあてをつかむ！(課題に対して何を、どう取り組むか)

手がかりをつかもう！

一人で挑戦しよう！
学んできたことをフル活用

仲間と追究しよう！
考えを比較・検討

交流でさらに深めよう！
練り合い・発見

自分の言葉でまとめよう！
分かったことを表現・確認

学びを振り返ろう！
思考の変化、学びの過程の自覚

新たな問いを持とう！

タブレットをしっかりと使いこなそう！

【評価について】

先生が教えること(指導)と、生徒の伸び具合を確かめること(評価)はセットになっています。テストは点数をつけるためだけではなく、先生が教え方を見直し、君が次の目標を見つけるための「次の目標づくり」だとも言えます。テスト以外にもノートやプリント、作品作成などの各教科それぞれの課題や、話し合い活動にも積極的に取り組もう。評価についてわからないことは先生に聞こう！